

IT21の会（平成23年10月第155回議事録）

日時：平成23年10月7日（金）18：30～20：30

場所：日本技術士会 暮手ビル5階B会議室

参加者：20名（講演者の太田氏を含む）

配布資料：

- ・ IT21-1110-0 参加表
- ・ IT21-1110-1 10月例会案内
- ・ IT21-1110-2 BCP対策としてのリモートアクセスシステム
- ・ IT21-1110-3 2011年10月度 情報工学部会見学会開催について
- ・ IT21-1110-4 例会アンケート
- ・ IT21-1110-5 9月例会アンケート結果まとめ
- ・ IT21-1110-6 モデリング研修(12/3)の目的

主テーマ：「BCP対策としてのリモートアクセスシステム」 太田氏

従来、BCP(事業継続計画)は社外からICT資産を利用し、オフィスとフィールドでの業務改善が主目的とされていたが、3.11の大地震を受けてこれまでのBCPでは対応しきれない事態から、BCPの在り方が見直され始めている。

そこで、リモートアクセスによる従来の業務改善に加え、大規模災害、パンデミック、節電への対策といった業務継続にも注目が集められている。

VPN接続、シンクライアント実装方式によってリモートアクセスシステムを構成することにより、

- ・ いつもの環境が利用できる
- ・ どこからでも利用できる
- ・ セキュアに接続できる

といった3つ特徴が得られる。

また、BCP対策としてリモートアクセスと共にクラウドを利用することがひとつの手段として考えられる。クラウド上に仮想化した環境を構築することで、通常時はリモートアクセスによる業務効率の向上を図り、非常時にはクラウドにより業務を継続するための耐障害性が得られる「脱オフィス」環境が構築出来るようになる。

しかし、現状としては金銭面でクラウドを利用するメリットが無いため導入が進んでいない。また、クラウド、リモートアクセスにはセキュリティの脆弱性や法的、運用面での課題があり、これらの懸念を払拭していく必要がある。

まとめとして、クラウド&仮想化とリモートアクセスによる手法がBCP対策としての1つの形として考えられる。

<質疑応答>

Q：クラウドにデータを置くことにはセキュリティの面から抵抗感があるが。(小西氏)

A：本当に重要なデータは手元に置き、他のデータはクラウドに置くなどレベル分けすることも想定できる。(太田氏)

セキュリティに関してはDB提供側の企業努力に委ねられているのが現状。

情報資産を守る為には明確な監査基準の整備される必要があるのではないかと。(川村氏)

サブテーマ1：「コンビニのおにぎりの生産工程とお店に届くまでの仕組み」 加納氏

加納氏によるおにぎりの生産工程と設備、配送方法などについて講演が行なわれた。

サブテーマ2：「統計から見た技術士第一次試験」 安部氏

JABEEコースによる修習技術者は、大学では建設部門を中心に機会・電気電子・化学に集中しているが、高専(専攻科)では応用理学に集中している傾向が見られる(専攻科は複数の学科を統合しているため、都合上応用理学に集約される)。

また、共通科目の数学・物理・化学・生物学・地学の選択では数学・物理の組み合わせが最も多かった。学生は数学・物理を選択するが、社会人は生物学・地学を選択する傾向がある。技術士一次試験を統計的に見た場合、専門科目に偶然合格する確率は0%となることが分かった。しかし、基礎・共通科目はこれに当てはまらないため、合格基準や試験制度について見直していく必要がある。また、一次試験不合格者のために共通科目の平均点公開についても検討するべきである。

9月例会アンケート結果報告 中原氏

原子力関連で強い要望があったため、山崎氏の紹介で原子力部会から講師を派遣してもらい、放射能中心の内容で2月4日(土)午後に講演予定。これに合わせて、合宿を上記の日時で拡大例会と称して半日程度で実施する予定である。

内容は電力、放射能関連のプレゼン(20分)程度行なう。プレゼン希望者は連絡のこと(現在1名)。

モデリング研修、臨時総会開催について 中原氏

12月3日に臨時総会を開催する。その後、外部講師によるモデリング研修を行なう。

15期会費報告 廣吉氏

10月7日現在で会員160名のうち27名が会費を未納。未納者には2度目の督促メールを送信済みである。また、今期は役員方針によりIT21の会非会員の参加者からは例会会費の徴収は行なわないこととした。

以上(記載者：木原 聡)